



令和7年から順次施行

# 育児・介護休業法、改正

令和6年に育児・介護休業法が改正され令和7年から順次施行されますが、このうち育児休業については男女ともに仕事と育児の両立という目的達成のために、子の年齢に応じた柔軟な働き方を実現するための措置が拡充されます。

1

3歳以上、小学校就学前の子を養育する労働者に関する柔軟な働き方を実現するための措置の拡充(令和7年中に施行)

これまでは、3歳未満の子どもを養育する労働者が希望する場合に、一日の労働時間を6時間とする短時間勤務制度を設けなければならないとされていましたが、改正後は、小学校入学前までの子を養育する労働者に対して、事業主は始業時刻等の変更・テレワーク等(10日/月)・保育施設の設置運営等・新たな休暇の付与(10日/年)・短時間勤務制度の中から2つ以上の制度を設けることが義務付けられ、労働者はその中から1つを選択できるようになります。

2

所定外労働の制限(残業免除)の対象拡大(令和7年4月1日施行)

これまでは、3歳未満の子を養育する労働者が請求すれば、所定外労働の制限(残業免除)を受けることができましたが、小学校就学前までの子を養育する親に対象が拡大されます。

3

子の看護休暇の見直し(令和7年4月1日施行)

これまでは、子の看護休暇は小学校就学前の子を養育する労働者が、子の病気やけが、予防接種などの際に取得することができましたが、対象年齢が小学校3年生までに延長されるほか、入園式・入学式・卒園式などの行事に参加する場合にも取得できるようになります。

4

育児のためのテレワークの導入の努力義務化(令和7年4月1日施行)

希望する場所で仕事をすることで育児と両立できるよう、3歳未満の子どもを養育する労働者に対して、テレワークを利用できる措置を講じることが事業主の努力義務となります。

5

仕事と育児の両立に関する個別の意向聴取・配慮の義務化(令和7年中に施行)

労働者が妊娠・出産を申し出た際や、子どもが3歳になる前に、事業主が仕事と育児の両立に関する意向を個別に聴取し、配慮することが義務化されます。具体的な配慮の例として、勤務時間帯の調整、業務量の調整、労働条件の見直し等について厚生労働省の指針で示される予定です。

●セブンセンス社会保険労務士法人 マネージャー 山崎 岳彦

SSG Topics

## 今年もセブンセンス“チャレンジ”Contest 開催!

2024年7月5日に「セブンセンス“チャレンジ”Contest」を開催しました。営業施策や社内環境の改善など、日々社員が感じる「こんなことチャレンジしたいな...」「もっとこうなったらいいのに...」を募集し、提案者自ら全拠点に向けてプレゼン。採択された提案はグループ全体のバックアップの下、実行される...というイベントです。第三回目となる今回も、多数の応募がありそれぞれの熱い想いを語りました。採択された提案をバネに、セブンセンスグループはよりステップアップしていきます!



公式note  
こちらから!



30秒! 英語で「Topics」をYouTubeにて配信中!

Seventh Sense Group Channel

YouTubeサイト内[Seventh Sense Group]で検索・登録!

<https://www.youtube.com/channel/UCiZ0YyTxji7HpALT0Lc101Q/>

ネイティブスピーカーのスタッフが、日本の税制やビジネス、そのほかさまざまなトピックスを、30秒間でコンパクトに英語で発信。情報収集や英語のヒアリングなどに、ぜひご活用ください!

猫も杓子もみんな気になる「AIの諸々」の話

話題の尽きない、AIの話題です。Microsoftは「Copilot+ PC」というWindows PCの新ブランドを立ち上げ、対象のラップトップPCが6月に発売されています。

これらのPCの特徴は、スマートフォンに使われている「Snapdragon」というCPUの強化版を搭載。ネットに接続しなくてもPC本体のみでAIの処理を実行できるパワフルな性能と、省電力性を兼ね備えた点です。たとえば、簡単に描いた落書きに文章で指示をして画像を生成する「コクリエイター」。PCの画面上に表示された情報を定期的にスクリーンショットで暗号化し保存。あいまいな文章で検索しても、該当の候補を表示できる「リコール」という機能など、様々なAIツールが利用できます。

テック企業他社との熾烈な競争の中、AI施策に前のめりなMicrosoftの方向性が出た商品とも言えます。生産性を高めるツールとしては非常に楽しみです。

しかしAI。世界的には諸手をあげて大歓迎！ といった様子でもありません。

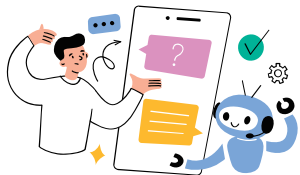
「リコール」機能は守秘義務のある書類を取り扱った際には不安を感じますし、すでに「リコール」機能のセキュリティの低さについて外部技術者から指摘がなされています。

またEUは5月、包括的にAIを規制する法案を可決、2026年から適用が始まります。社会的な信用度や犯罪予測をする目的で人を分析するAIは禁止。教育機関入試・採用では人間によるリスク管理が求められます。

また、実在の人間の姿や声に似せて生成AIで作成した画像・音声などは「AIによるもの」と明示することが義務づけられます。これに似たことは、Chat GPTの合成音声、女優スカーレット・ヨハンソンさんの声

を模したものの（映画でAIを演じたその声を、オープンAIのCEOが気に入った）だったとしてすでに大問題にもなっています。

前に進めたい動きと、立ち止まって考える動き。人間の未来を描く模索は、まだまだ続きそうです。



A~Dに入る数字を足すといくつになるでしょうか？  
解答は、次月号に掲載します。

		3		5		7		
			6		9		3	
4	8				D			2
		9	B		3	4		
1				7				5
		4	1		C	2		
7			A				8	9
	2		9		1			
		5		4		6		

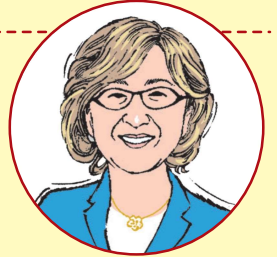
解答欄 <sup>A</sup> + <sup>B</sup> + <sup>C</sup> + <sup>D</sup> = 合計

6月号の答え <sup>A</sup> + <sup>B</sup> + <sup>C</sup> + <sup>D</sup> = 合計  20

## 先達に学ぶ。

### 「革新と挑戦のベンチャー精神」

南場 智子 氏  
(実業家)



「ベンチャー精神に満ちた、向上心にあふれた人物」と形容して、異論は出ないと思うほど、南場智子氏の経歴は挑戦に満ちている。

1962年、新潟県新潟市に生まれた南場氏。津田塾大学を卒業後、1986年にマッキンゼー・アンド・カンパニーへ入社。さらにハーバード・ビジネス・スクールに入学し、1990年にはMBAを取得。そして1999年「自らサービスや製品を生み出し、人の役に立ちたい」との思いで設立したのが株式会社ディー・エヌ・エー（DeNA）だ。

華やかな経歴の一方、全てが順風満帆であったわけではない。乗り越えてきた困難は数多く、同社のネットオークション事業もその一例だろう。立ち上げようとしたネットオークションサービス「ビッダーズ」（現・auPAYマーケット）のサービス開始が度々延期となり、その間に「Yahoo!オークション」が本格始動、後塵を拝する形となる。自らを「負けず嫌い」と語る南場氏。ナンバーワンになれる市場を探した結果、PCでのオークション・サービスでなく、モバイルに着目。「モバオク」を誕生させ、日本最大規模のモバイル・オークション・サイトに成長させた。

また2011年の、横浜ベイスターズ（当時）の買収も大きな話題を呼んだ。インターネット業界で揉まれた経験は買収後も活かされ、野球のファン層や楽しみ方を広げる施策を打ち出す。結果、年間およそ25億円の赤字から、5年で黒字化を果たした。

DeNAは日本発の「永久ベンチャー」であり続けたいという南場氏。そのスタンスは成長と挑戦を志す人たちの指針となるに違いない。

## 今月の Book Review 一冊

### 基礎から学ぶ 海外資産の法務と税務

- 編著：セブセンス税理士法人
- 出版社：金融ブックス
- 価格：2,200円（税込）
- 発売中

海外資産・国際相続にまつわる「国際資産税」を基礎から紐解く良書！ 国際資産に関係する法務と税務の基本的な概念について、海外資産を持つ方や、海外に接点をもつ相続・贈与関係者の方から、多く寄せられる相談を基に構成。起こり得る問題を踏まえた、事前対策の基本書としても最適。特に相談の多い米国資産にも言及しながら、12のケース別の対処等も解説。 [kinyubooks.co.jp](http://kinyubooks.co.jp)



## 今月、この日に何があった？



（ 1969年8月4日 TBSテレビ系列で、ドラマ「水戸黄門」放送開始 ）

ナショナル（現パナソニック）の一日提供枠「ナショナル劇場」で放送を開始。2003年12月には放送1,000回を迎えた。しかし2011年12月の放送を持って最終回を迎えた。NHKなどを除けば、レギュラーのテレビ時代劇はほぼなくなって久しい。時代考証や衣装、かつらなど、現代劇に比べて倍の制作費がかかることに加え、視聴の変化から時代劇が徐々に受け入れられなくなってきた。水戸黄門の「（印籠を差し出し）この紋所が目に入らぬか」など、時代劇のお約束は、ある世代までは多くが理解、共有ができるものだったが、それも今や昔。